

## 『保健室経由、かねやま本館。[1]』



あーさっぱりした

松素 めぐり／著  
おとない ちあき／装画・挿画  
講談社  
(JFマ)



※シリーズ1～6巻あります。  
2023年7月現在

「サーマってちょっとしんどい」  
昨日まで仲良くしていた友達に突然突きつけられた冷たい一言。  
耐えられず保健室へ向かう途中、「あんたはこっち」と不気味な白衣のおばさんに別の部屋を案内された。  
【第二保健室】ってあったっけ？

## 『起業家フェリックスは12歳』



行動しなきゃ  
始まらないでしょ

アンドリュウ・ノリス／著  
千葉 茂樹／訳  
あすなる書房  
(JSノ)



これは売れるにちがいない！  
アイデアを実現するのが大好きなフェリックスがカードを売るビジネスを立ち上げた。  
大好評を得て順風満帆かと思いきや、新たな問題に直面する。  
「え？子どもでも税金って払うの？」  
はたしてこの起業、成功するのか？

# YOMUZO TIMES

よむぞう タイムズ

FOR TEENS

第1号



## 探して 迷って 突き進め



寄り添いたいから  
考える

考えないと  
寄り添えない

予約はこちら /



### 『笹森くんのスカート』

神戸 遙真／著 みずす／画 講談社 (JFコ)

夏休み明け、笹森くんの制服はなんとスカートになっていた！  
何を思ってスカートを履いているのか。その行動は周りをどう変えるのか。みんなの悩みや迷いが交錯する連作短編集。

狭山市立図書館のティーンズ担当が10代のみなさんにおすすめするブックリストです。  
第1号 Menu テーマ 「探して 迷って 突き進め」

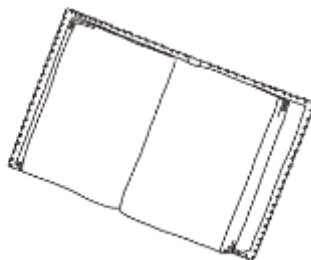
2023年7月15日発行



## 夏のイベント★参加者募集！

### ビブリオバトル

日時 7月23日(日)・8月27日(日) 15:00～16:00  
場所 狭山台図書館 2階 視聴覚室  
対象 小学生～大人  
申込み 不要  
持ち物 おすすめの本1冊



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



BOOK MENU

## 『6カ国転校生ナージャの発見』



正解はない  
違いがあるだけ

キリーロバ・ナージャ／著  
集英社インターナショナル  
(J372 キ)



筆記用具は鉛筆と消しゴム。  
体育の並びは背の順。  
お昼は学校で給食。  
そんなの普通、当たり前。でも、他の国でもそうなのかって考えたことある？  
世界6カ国に転校し各々の国で学校生活を送った著者ナージャの体験&発見が読者の常識をくつがえす。

## 『ぼくを探しに』



なにが足りない？

シルヴァスタイン／作  
倉橋 由美子／訳  
講談社 (EFシ)



何かを決めて進むこと。  
時には辛く。  
時には楽しく。  
たどり着いたと思っても、自分が思い描いた場所とは違うこともあるだろう。  
回り道をしたっていい。  
間違えたら、やり直せばいい。  
きみの自分探しはまだ始まったばかり。

## 『「オードリー・タン」の誕生』



ITの神さま

石崎 洋司／著  
講談社  
(J289 オ)



新型コロナウイルス感染症で世界がマスク・パニックに陥った時、唯一混乱を防いだ台湾。迅速な対応の裏には天才ハッカーで台湾史上最年少の閣僚オードリー・タンの活躍があった。  
「この人は台湾のために働いてくれるすばらしい人材です」  
対立する政党側が褒めちぎるほどの有能な彼女はどんな人生を歩んできたのか。

## 『彼の名はウォルター』



読み始めたら  
止まらない

エミリー・ロッド／著  
さくま ゆみこ／訳  
あすなろ書房  
(JSロ)



遠足の途中、悪天候で古い屋敷へ避難することになったコリン達。ポロポロの屋敷で見つけた、ひときわ美しい書き物机とその中に隠されていた一冊の本。  
題名は『彼の名はウォルター』  
コリン達は吸い寄せられるように物語へと引き込まれていく。  
すると屋敷では不穏な気配が漂い出して…。一体誰が何の為に隠していた本なのだろう。

## 『18歳から「大人」？』(全3巻)



あれもこれも  
できちゃう!?

『18歳から「大人」？』編集  
委員会／編著  
汐文社(J324 ジ1~3)



成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたけど、18歳になったらできることと、20歳にならないとできないことが混ざっていて、なんか難しそう。  
ちょっと心配だなあ…と思ったあなたもこの本を読めば大丈夫。大人になった自分を想像してみるのも楽しいかも。

## 『宇宙食になったサバ缶』



鯖街道を宇宙まで!

小坂 康之／著  
別司 芳子／著  
早川 世詩男／装画・挿絵  
小学館(J667 コ)



自分たちのサバ缶を宇宙で食べてもらいたい。そんな思いで高校生がサバ缶をJAXA認証の宇宙食にした、本当の話。  
普通のサバ缶じゃ、宇宙に持って行けないらしい。なんで!?! どうする!?!  
でも、先輩たちから受け継いで、友だちと協力して、みんなの力で困難を乗り越えた姿はカッコよくて、勇気をもらえます。

## 『境界のポラリス』



私は、何者？

中島 空／著 講談社  
(JFナ)



日本で平和に暮らすために、中国人だと知られないように頑張る恵子は、夜間中学で日本語の先生をすることに。そこで、昔の自分みたいに日本語を学ぶ生徒たちと出会います。  
どこの国出身か。日本人らしいか。それって、自分らしく生きることより大切？

## 『ロス、きみを送る旅』



ぼくらは親友  
の、はずだった

キース・グレイ／作  
野沢 佳織／訳  
徳間書店  
(JFグ)



事故で死んだロスの骨壺を盗んで、彼が行きたがっていた町に連れて行く。親友3人で立てたその計画は、トラブル続きでけんかばかり。  
ロスのためだと信じて突き進むけど、これって正解？ 迷った先にたどり着いた答えとは。